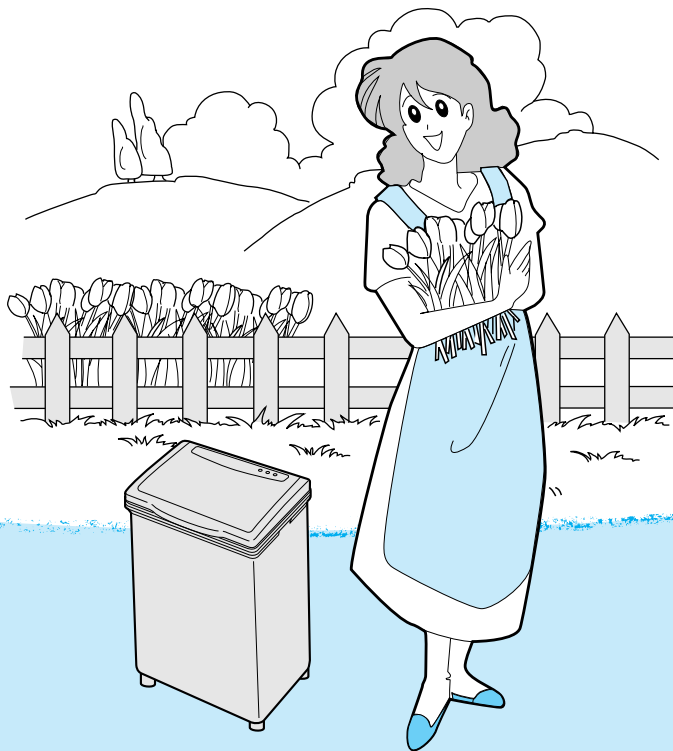
取扱説明書

HITACHI
Inspire the Next

軒下設置型・屋外用
家庭用バイオ式電気生ごみ処理機
BGD-170形 軒下設置型・屋外用

このたびは家庭用バイオ式電気生ごみ処理機をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。
この取扱説明書をよくお読みになり、正しくご使用ください。
特に「安全上のご注意」は必ずお読みください。
お読みになったあとは、保証書とともに大切に保存してください。

安全上のご注意

ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

★ここに示した注記事項は

表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

⚠ 警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
⚠ 注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

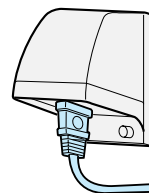
絵表示の例

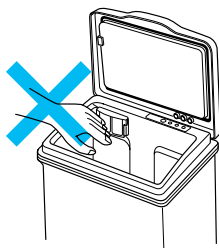
	「警告や注意を促す」内容のものです。
	してはいけない「禁止」内容のものです。
	必ず実行していただく「指示」内容のものです。

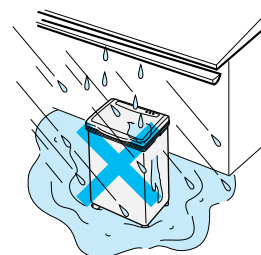
⚠ 警　告

修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をおこなわない

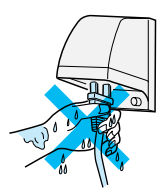
- 発火したり、異常動作してけがをすることがあります。

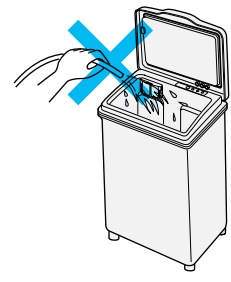
交流100Vの防雨形コンセントを使う

- コンセントに雨水がかかると漏電の原因になります。

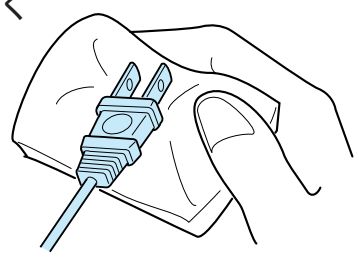
ふたを開けても、かくはん棒が回転を続ける場合は、直ちに使用を中止する

- 修理を依頼してください。けがの原因になります。

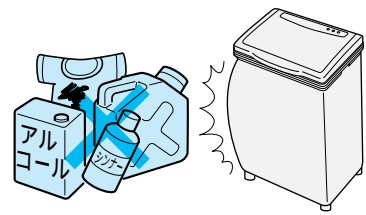
雨水がたまり水浸しになるような場所には据え付けない

- 感電や漏電による火災の恐れがあります。

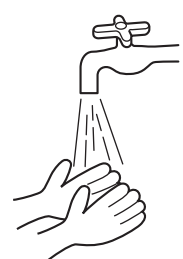
⚠ 警　告

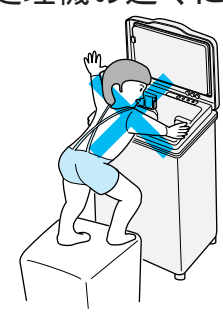
処理槽の中に手を入れるときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く
また、ぬれた手で抜き差ししない

- 感電やけがをすることがあります。

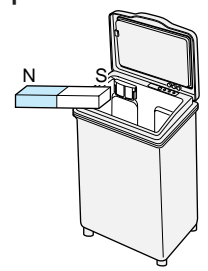
本体各部に直接水をかけない
また、処理槽の内部は絶対に水洗いしない

- 漏電・感電の原因になります。

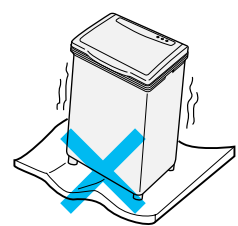
電源プラグは、刃および刃の取り付け面にほこりが付着している場合はよくふく

- 火災の原因になります。

処理槽には、灯油、ガソリン、ベンジン、シンナー、アルコールなどやそれらが付着したごみを絶対に入れたり近づけたりしない

- 爆発や火災の恐れがあります。

基材のリフレッシュなどで基材に触ったときは必ず手を洗ってください。

- 生ごみを投入後の基材は土や堆肥と同じです。衛生上好ましくありません。

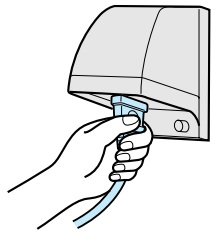
幼児に処理槽の中をのぞかせない
また、生ごみ処理機の近くに台を置かない

- 落ちてけがをすることがあります。

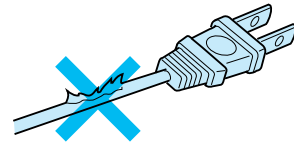
ふたを開けたとき、本体の上部に磁石を近づけない

- 内部のふたスイッチが働き、かくはん棒が回転を始め、けがをする恐れがあります。

据え付けは、屋外の水平で安定したところに据え付ける

- 転倒によりけがをすることがあります。

安全上のご注意（続き）

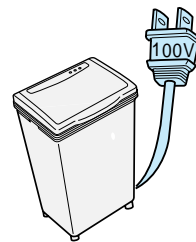
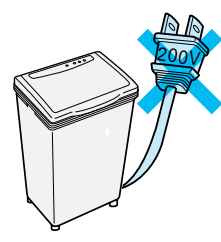
⚠ 注　意

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに必ず先端の電源プラグを持って引き抜く

- 感電やショートして発火することがあります。

電源コードや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込みがゆるいときは使用しない

- 感電・ショート・発火の原因になります。

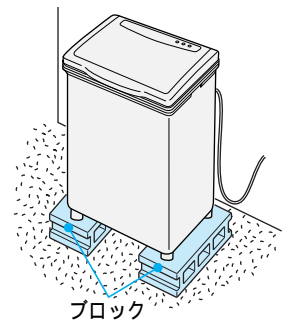
電源コードを傷つけたり、破損したり、無理に曲げたり、ひっぱったり、ねじったり、たばねたりしない
また、重いものを載せたり、挟み込んだり、加工したりしない

- 電源コードが破損し、火災・感電の原因になります。

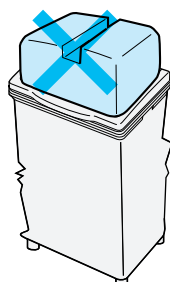
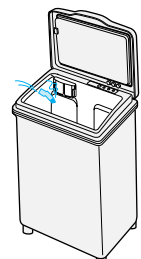
交流100V以外では使用しない

- 火災・感電の原因になります。

長期間ご使用にならないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く

- 絶縁劣化による感電や漏電火災の原因になります。

土や芝生の上に置く場合は、ブロックを敷く

- 感電・ショート・発火の原因になります。

生ごみ処理機の上にのぼったり、重いものを載せたりしない

- 変形・破損・転倒によりけがをする恐れがあります。

火気の近くに設置しない
また、火のついたたばこなどを投入しない

- 本体の変形によるショート・発火の原因になります。

各部のなまえ

ふた

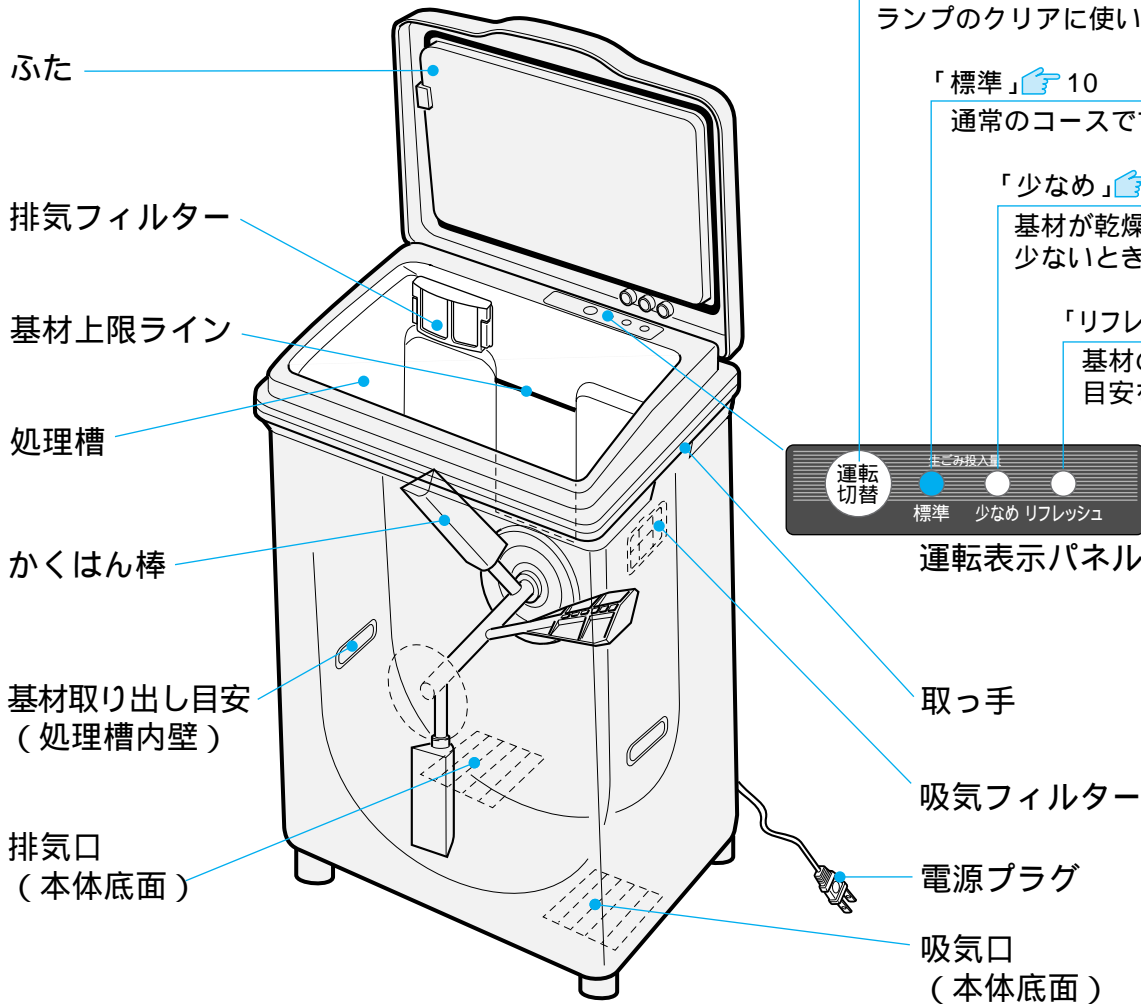
排気フィルター

基材上限ライン

処理槽

かくはん棒

基材取り出し目安
（処理槽内壁）

排気口
（本体底面）

運転切替 **ボタン** ☞ 10，11

運転コースの切り替えと「リフレッシュ」ランプのクリアに使います。

「標準」 ☞ 10

通常のコースです。

「少なめ」 ☞ 10

基材が乾燥するときや投入量が少ないときに使用します。

「リフレッシュ」ランプ ☞ 11

基材のリフレッシュ時期の目安を示します。

運転切替　生ごみ投入量　標準　少なめ　リフレッシュ

運転表示パネル

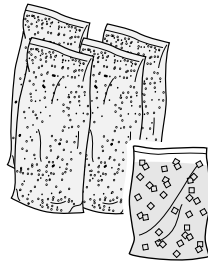
取っ手

吸気フィルター

電源プラグ

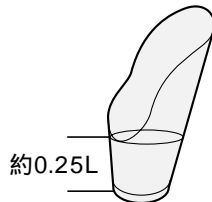
吸気口
（本体底面）

付　属　品

- バイオ菌入り基材　4袋(1袋　約4L)
  (バイオフレーク)
- グリーンキューブ　1袋(約1L)

ご注意

- 製品の輸送中に、袋がやぶれて基材がもれる場合がありますが支障ありません。そのままP7の「ご使用前の準備」にかかってください。

- スコップ1個
  処理槽内に収納してあります。
計量カップを兼ねています。

約0.25L

運　転　内　容

- 電源プラグをコンセントに差し込むと、「標準」ランプが点灯し通電状態となります。
- 通電状態で、ふたを閉めると、4分間のかくはん運転をおこないます。以後、このかくはん運転は自動的に30分ごとに4分間繰り返します。
- ふたを閉めた状態で電源プラグをコンセントに差し込むと、ブザーが鳴り、運転表示パネルのランプがすべて点灯しますが、異常ではありません。約15秒後に運転を開始し、「標準」ランプのみ点灯します。
- かくはん中にふたを開けると、かくはんが休止します。
- 外気温度に応じて、保温ヒータが自動運転しバイオ処理を助けます。

据え付けのしかた

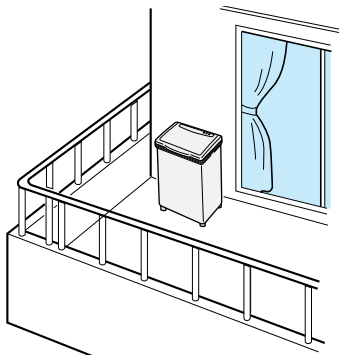
据え付け場所を選ぶ

■風通しのよい屋外に設置してください。

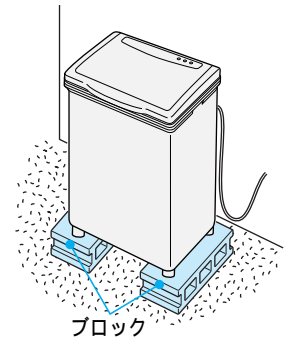
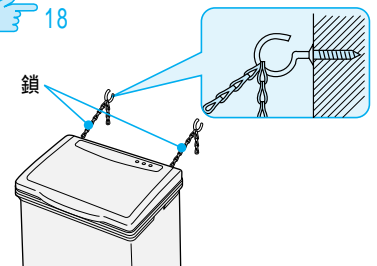
ご注意

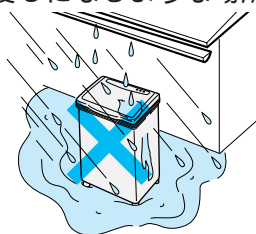
- 屋外でも袋小路や、壁や塀で囲まれたコーナーなど風通しの悪い場所に据え付けますとにおいがこもります。
- 室内やシャッターの付いた車庫、物置の中など閉ざされた場所に設置しますとにおいがこもります。

■ベランダに据え付ける場合は、壁側にしてください。

- 落下、転倒を防ぐためです。

据え付ける

■安定したところに水平に据え付けてください。

■土や芝生の上に置く場合は、ブロックを敷いてください。

■強い風が吹きつける場所に据え付ける場合や、倒れる恐れがある場合は、鎖（2ヶ）で本体を壁に固定してください。
（別売り部品）☞18

⚠警　告

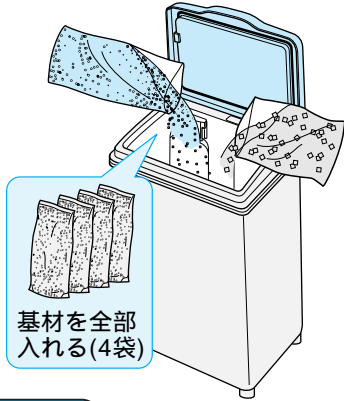
雨水がたまり水浸しになるような場所には据え付けない

- 感電や漏電による火災の恐れがあります。

ご注意

- ポリ袋や段ボール箱などで本体をカバーしないでください。
  換気が阻害されてにおいの発生や、基材交換を早める原因になります。

ご使用前の準備

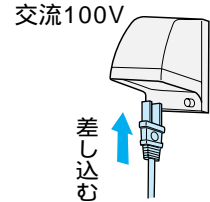
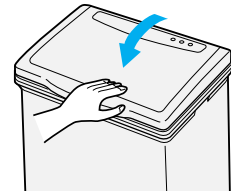
1 ふたを開け基材を入れる

基材とグリーンキューブのポリ袋を開封して、それぞれ全部入れます。どちらが先でもかまいません。

ご注意
- 排気、吸気フィルターに振りかからないように入れてください。

2 水を約1L入れる

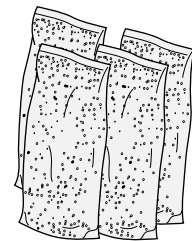
付属のスコップ(4杯)または飲料水のペットボトルなどを利用して入れます。

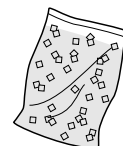
- 適当な湿気を与えるためです。

3 プラグを差し込みふたを閉める

- 通電状態であることを示す「標準」ランプが点灯します。

- ふたを閉めると自動的にかくはん運転がはじまります。

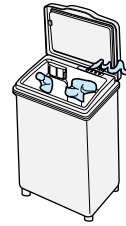
ご注意
- バイオ処理維持のため、電源プラグはコンセントに差し込んだままで常に運転しておいてください。
旅行などでご使用にならない場合も、電源を入れたままで結構です。
留守対応機能が働き、自動的に最小限の維持運転に切り替ります。

■基材(バイオフレーク)について

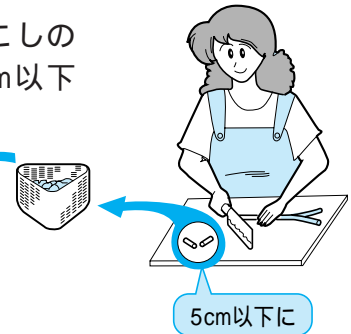
- 乾燥したおがくずをベースに活性炭、pH調整剤(いきいきミネラル)などを加えて加工したもので、微生物の育成に必要な「水分」「空気」「温度」などを適切に保つ微生物の住家です。また、バイオ処理で生じるにおいの元になるガス成分を吸着します。
- 出荷時に、基材の中に生ごみを分解するバイオ菌を予め混ぜてありますので、使用開始から分解処理がおこなわれます。
- 開封時に、黒い粒がよく混ざり合わず片寄っている場合がありますが、異常ではありません。そのままお使いください。

■グリーンキューブについて

- 天然パルプから造った、人畜無害の自然に優しい生分解性の発泡体です。基材(バイオフレーク)の中に投入したとき、微生物の快適な「すみ家」になるとともに、基材内の水分や空気の状態を微生物が働きやすい状態に保つなどのいろいろな働きをします。これにより基材が長持ちし、リフレッシュ期間を延ばすことができます。

使用上のご注意

1 分別して入れる

■投入できるものと、投入できないものがありますので、
あらかじめ必ず分別してください。☞9

2 硬くて大きいものや長いものは小さくする

■ごぼう、とうもろこしのしんなど硬くて大きいものや、とうもろこしの皮、たけのこの皮、長ねぎの白根など丈夫な繊維質の長いものは5cm以下に小さくしてください。
- かくはん棒の回転を妨げてかくはん異常の原因になります。

■おにぎりのようなだんご状のものは、
ほぐして入れてください。
- においが強くなる原因になります。

3 水切りをおこなう

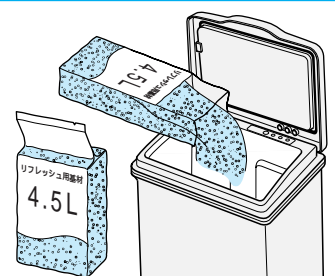
■生ごみを投入するときは、水切りをしてください。

- 基材の水分が多くなると、微生物が住みにくくなるので、においが強くなる原因になります。
また、基材が固まりやすく基材交換時期を早める原因になります。

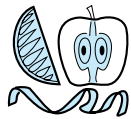
4 入れ過ぎない〔連続処理の場合最大1.2kg(約2.4L)/日〕

■1日に投入できる生ごみの量は、1.2kg以下です。
(週に1日のみ1.7kgまで投入できます)
- 生ごみ用三角コーナーに約1杯強を目安にしてください。
- 毎日連続して1.2kgを超えて投入すると処理が遅くなり、においが強くなる原因になります。
- 1日に1.2kg以内であれば、2〜3回に分けて投入してもかまいません。

5 基材のリフレッシュ(基材の部分交換)はお早めに

■基材は長期間使用すると土状に変化し水分調整、空気補給、ガス吸着などの働きが低下して微生物が住みにくくなりますので、基材のリフレッシュ(基材の部分交換)をしてください。☞13
基材のリフレッシュ時期は、環境条件や生ごみの種類・量により異なりますが、標準的な生ごみを処理した場合1日1.2kgの処理で約2〜3ヶ月、1日0.5kgの処理で約10〜12ヶ月ほどが目安です。

投入できるもの・投入できないもの

投入できるもの

- 野菜くず
- 魚の皮や骨
- 鶏の骨・卵やカニえびの殻
- ごはん・めん類
- 肉類
- 茶がら
- 果物やとうもろこしの皮やしん
- その他、一般的に人間が食べられるもの

■ミカン類の皮、豆類の皮などは分解しにくいので処理時間が長くなります。

■牛乳、ジュース、しょうゆ、ドレッシング、味噌汁などは少量ならかまいません。

ご注意

鶏の骨、卵やカニ・えびの殻など硬い殻などは分解しないため連続して大量に入れますと、処理槽を傷つける場合がありますのでご注意ください。

投入できないもの

食品以外のもの（人間が食べられないもの）

- 貝殻
- 牛や豚などの大きな骨
- 桃・梅干しなどの硬い種子

食品以外のもの（人間が食べられないもの）

- 紙　　　　類 ……ティーバッグ、紙コップなど
- プラスチック類 ……プラスチック・発泡スチロールの容器、びんの栓、スプーン、フォーク、ひも、ポリ袋、輪ゴムなど
- 金　属　類 ……ナイフ、フォーク、スプーン、缶、缶のプルリング、びんの栓、アルミホイル、金属たわし、乾電池など
- 繊　維　類 ……髪の毛、化学繊維、ふきんなど
- 木　片　類 ……折箱、割りばし、つまようじ、串など
- 陶　器　類 ……陶器、磁器、ガラス、石類など

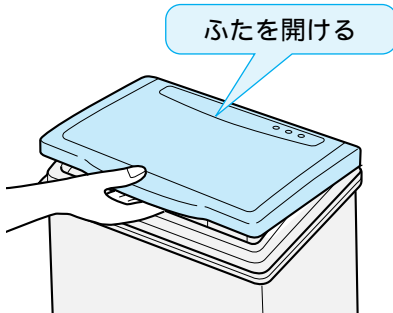
微生物の生育を妨げるもの

- 薬　品　類 ……洗剤、漂白剤、石けん、歯磨き粉、化粧品、整髪料、シャンプー、リンス、化学製品、医薬品など
- た　ば　こ ……たばこ、たばこの灰
- 液 体 の も の ……ガソリン、灯油、ベンジンなど

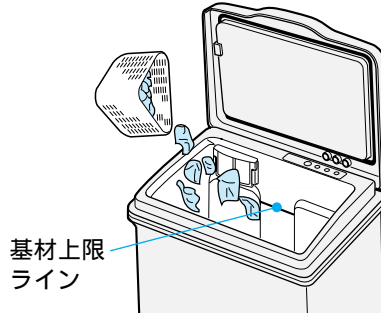
投入に注意するもの

- においの強いもの（魚のアラなど）は、一度に多く入れないでください。
魚のアラは、1日300g以下が目安です。

使いかた

1 ふたを開ける

ご注意

- ふたを開けるとき、無理な力を加えると外れるようになっています。外れたときは、もと通りにセットしてください。13
- 虫を駆除する場合は、ピレスロイド系のスプレー式殺虫剤をご使用ください。

2 生ごみを投入する

ご注意

- 基材が基材上限ライン付近まで増えてきた場合は、スコップで取り出してレベル調節をしてください。12
- 基材がパサパサに乾燥してきた場合は、湿り気を与え「少なめ」コースに切り替えてください。

3 ふたを閉めて運転する

ご注意

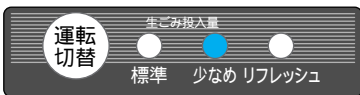
- ふたが確実に閉まっていないと運転をおこないません。
- 生ごみが処理槽の内壁にこすれたり、ぶつかったりして「ギュー」または「ゴトン」という音がでることがありますが、異常ではありません。

ご注意

- 使いはじめて1週間前後、においが強くなる場合がありますが、そのままご使用ください。基材の発酵臭ですので次第におさまります。
- 使用中は運転表示パネルの「リフレッシュ」ランプが点滅していないかをチェックし、基材の交換時期かどうかを確認してください。

■運転コースの使いかた

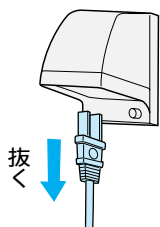
「生ごみの投入量」と「基材の状態」に合わせて運転コースの選択をおこない、基材を常に最良の状態に保つようにしてください。

「標準」
通常はこのコースを使います。

「少なめ」
生ごみの投入量が少なく（1日約0.5kg以下）、基材がパサパサに乾燥する場合に使います。

コースの切り替えは(運転切替)ボタンでおこないます。(運転切替)ボタンを1回押すごとに「標準」と「少なめ」が交互に切り替わります。

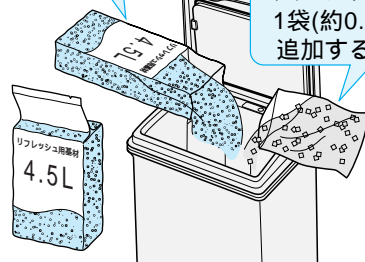
ご注意　通常の生ごみ量（1日約0.5kg以上）を「少なめ」コースで処理しますと、処理能力が不足し早期に基材状態が悪化する恐れがあります。
通常は「標準」コースをお使いください。

基材リフレッシュ（基材の部分交換）

4 電源プラグをコンセントから抜く

- 基材を取り出すときにかくはん棒がじゃまになるときは、電源プラグをコンセントから抜く前に、ふたを開閉しながら位置をずらしてください。

5 処理槽から古い基材を取り出す

ご注意
- けが防止のため、手袋をご使用ください。
- 基材に触れたあとは、必ず手洗いをしてください。

6 新しい基材を追加し、運転切替ボタンを押す

- 電源プラグをコンセントに差し込んだ後、運転切替ボタンを3秒以上押してください。
(ピッピッピッピーとブザーが鳴り、リフレッシュランプがクリアーされて消えます。)

3秒押す

*グリーンキューブの利用
- 別売り部品グリーンキューブ(BG-G5)をご利用になりますと、微生物の生活環境を改善し、基材のリフレッシュ時期を延ばすことができますので、ぜひご利用ください。
もちろん、基材のみ「リフレッシュ」してもかまいません。

■「リフレッシュ」ランプの使いかた

リフレッシュランプは、基材のリフレッシュ時期の目安をお知らせするランプです。

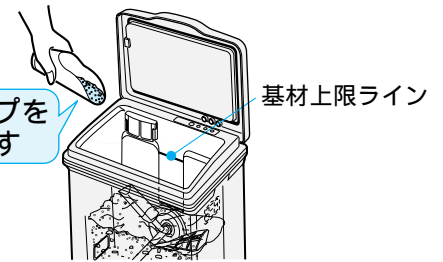
ランプが点滅したら
基材のリフレッシュ時期の目安を示します。
基材の状態を確認し、右の基材状態になっていたらリフレッシュをおこなってください。

基材の状態
1. 粒状の固まりができる。
2. 未処理の生ごみが目立つ。
3. 粘り気が多くなる。
4. においが強くなる。

ご注意
- リフレッシュランプは、あくまで、基材のリフレッシュ時期の目安をお知らせするものです。
リフレッシュが必要かどうかは基材状態をチェックして判断してください。
- 基材のリフレッシュをおこなってから数日過ぎても基材の状態がよくならないときは、もう一度リフレッシュをおこなってください。それでも基材の状態がよくならないときは、基材全体を交換してください。

基材のお手入れ

■基材量の調節

バイオ処理の過程で、基材の容積が増える場合があります。基材上限ラインを越えないようにスコップで取り出してください。

■基材の水分調節

毎日の投入量が少ない場合や、数日間生ごみの投入をおこなわなかった場合、排気フィルターが目詰まりするくらいに基材がパサパサに乾燥する場合があります。このときは、水をスコップで2～3杯均一に入れて湿り気を与え、「少なめ」コースに切り替えてください。☞10

■**使用中の基材の変化とリフレッシュの必要性**

基材は使用時間とともに、土状に変化し水分調整、空気補給、ガス吸着などの働きが低下して微生物が住みにくくなります。このため気温や湿度などの環境条件や生ごみの種類・量によって時期は異なりますが、右記のような状態に変化します。

- 基材のリフレッシュ時期は、環境条件や生ごみの種類、量によって異なりますが、標準的な生ごみを処理した場合1日1.2kgの処理で約2～3ヶ月、1日0.5kgの処理で約10～12ヶ月が目安です。

基材の状態変化

1．粒状の固まりができる。
2．未処理の生ごみが目立つ。
3．粘り気が多くなる。
4．においが強くなる。

■古い基材の取り出し作業について

基材が固まっている場合は、スコップや棒状の用具などを利用し、取り出してください。作業はケガ防止のため手袋をご使用ください。また、基材は土や堆肥と同じですので、衛生上必ず手を洗ってください。

■基材の全量交換法

- 基材交換が遅れて、著しく悪い状態になってしまうと、基材のリフレッシュでは復旧できなくなってしまいます。このときは古い基材を全部取り出し、別売り基材4パックを投入して、P7「ご使用前の準備」と同一の作業をしてください。作業がしずらいときはふたを外して作業をすることもできます。☞13
- 別売りグリーンキューブ(BG-G5)を入れる場合は2袋(約1L)投入します。

取り出した基材の処置方法について

■有機肥料として再利用する場合

未分解の生ごみが基材に残っている状態で植物に与えますと、土壌中で植物に有害なガスの発生、植物必須成分である窒素の欠乏、植物に有害な病原菌の増殖などで、植物の発芽や生育が阻害される場合がありますので、正しくご利用ください。☞14

■有機肥料として利用しない場合

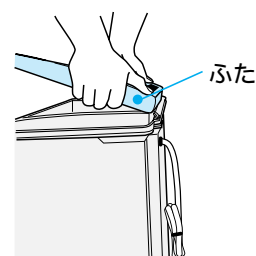
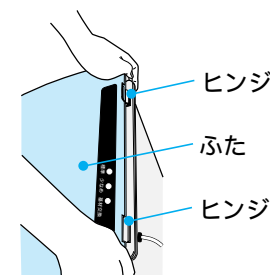
可燃ごみとして廃棄処分してください。

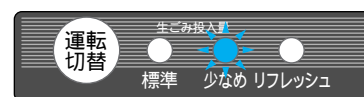
その他　お知らせ

留守対応機能について

- 3日以上ふたを開閉しない場合は、自動的に留守対応機能が働き、保温ヒータとかくはん運転を停止します。外気温が0℃未満のときは、6日以上となります。（「標準」ランプまたは「少なめ」ランプは点灯したまま換気ファンは回っています。）
- ふたを開閉することにより、通常の運転に戻ります。
- 再度使用する場合は、通常通り生ごみを投入してください。

ふたの脱着のしかた

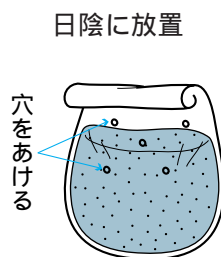
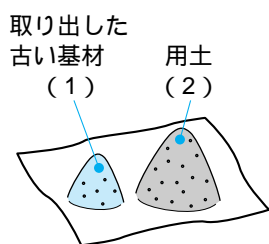
■ふたの外しかた
右図のようにふたの後部両脇に手をかけ、片側ずつ静かに持ち上げるとふたが外れます。

■外したふたのセットのしかた
処理槽の上面にふたを閉めた状態になるように置き、背面のヒンジが見えるようにしてください。そして、右図のように片側ずつ静かにパチッと音がしてヒンジがはまるまで上から押しつけます。そのあと、ふたが正常に開閉することを確かめてください。

「少なめ」ランプが点滅したときは

「少なめ」ランプが点滅したときは、かくはん運転に異常があることを示します。同時に保護装置が働き自動的に運転を停止するようになっています。なおふたを開けるとブザーでもお知らせします。電源プラグをコンセントから抜いてから、ふたを開け、保護装置が働いた原因を取り除いてください。

調べるところ	処置のしかた
● とうもろこしのしんや皮、たけのこの皮など大きなものや繊維質のものを投入しなかったか。 ☞8	● 取り除いてください。
● ポリ袋、ふきんなどの異物を投入しなかったか。 ☞9	● 異物を取り除いてください。
● 基材が固まっていないか。 ● 基材の交換時期ではありませんか。 ☞8,11	● 基材のリフレッシュ(基材の部分交換)をしてください。

取り出した古い基材を有機肥料として利用する方法

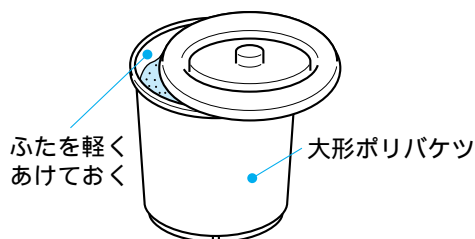
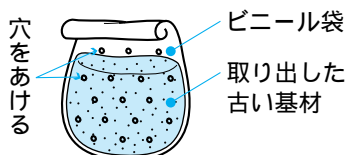
有機肥料として再利用する場合は次のようにしてください。

1 土と混ぜて利用する場合

取り出した古い基材と用土（黒土や赤土）を、おおよそ1：2の割合で混ぜ合わせて、乾燥を防ぐために日陰で風通しのよい場所で、雨水のかかりにくい軒下などに置いて、おおよそ20～30日のあいだ、寝かせてください。

2 土と混ぜないで単独で利用する場合

厚めのポリ袋に入れ、空気が出入りできるように割りばしなどで数か所に小穴をあけて、乾燥を防ぐために日陰で風通しのよい場所で、雨水のかかりにくい軒下などに置いてください。約20～30日経過すると、2次発酵が進んでにおいが少なくなり、植物にやさしい有機肥料になります。

植物に与えるときは、土に対して有機肥料が重量比で10～20%の割合になるように、混ぜ合わせてご利用ください。

■大きめのポリバケツに入れ、空気が出入りできるようにふたを軽く開けた状態で、放置する方法もあります。このときも乾燥を防ぐために日陰で風通しのよい場所で、雨水のかかりにくい軒下などに置いてください。

3 約1.5か月以上長持ちした基材を交換した場合の利用

この場合は、処理槽内で生ごみの発酵分解が進んでおりますので、放置する時間は約10日前後の短い時間で、植物に与えても問題ありません。

ご注意

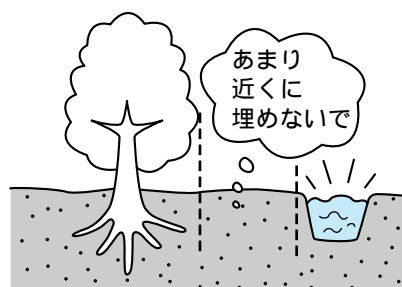
古い基材の大きい固まりは砕いてください。固まりを砕いたとき、中から野菜のブロックなど未処理の生ごみがでてきたときは、生ごみ処理機に再投入して処理しなおしてください。

土と混ぜないで単独で保存する場合には、固まりを砕く作業は特に重要です。固まりはそのまま乾いてしまい、堆肥として利用しにくくなります。

4 直接庭などに埋める場合

植物の根付近を避けて埋めてください。
根ぐされなどで植物が枯れるおそれがあります。

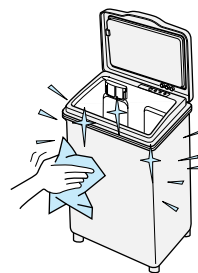
お手入れ

警 告

処理槽の中に手を入れるときは、必ず電源プラグを抜く。また、ぬれた手で抜き差ししない。
- 感電やけがをすることがあります。

本体各部に直接水をかけない。また、処理槽の内部は絶対に水洗いしない。
- 感電や漏電による火災の恐れがあります。

本体のお手入れ

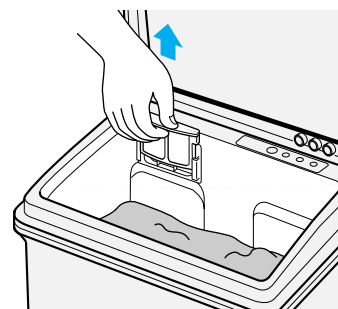
■本体の汚れは、水または中性洗剤を含ませた柔らかい布でふき取ってください。

ご注意
- 乾いた布やブラシ、たわしなどでこすったり、クレンザー、ワックスなどで磨いたりしないでください。光沢をなくし、変色する原因になります。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。

フィルターのお手入れ

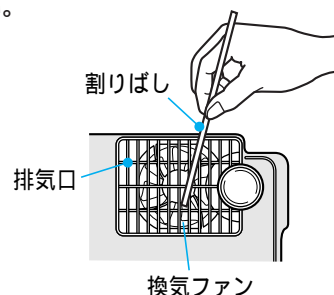
■フィルターが粉状のほこりや基材で目詰まりしている場合
- フィルターが目詰まりすると、湿気やガス成分の排気能力が低下し、においが強くなる原因になります。

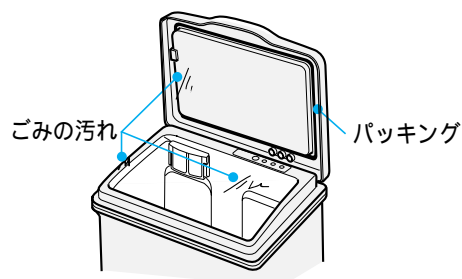
排気フィルター

①排気フィルターを矢印のように上にスライドさせて取り外してください。
②排気フィルターを掃除します。
- 古い歯ブラシなどで落とすか、汚れのひどいときは水洗いをします。

③元通りにセットします。

吸気フィルター

①本体に取り付けたまま古い歯ブラシなどで落としてください。

ご注意
- 金属などの硬いブラシは、フィルターを傷めますので使用しないでください。
- 毎日の生ごみ投入量が少ない場合、処理槽内の基材が乾燥しすぎて微粉が舞う場合があります。この場合は、水分を与え、「少なめ」に切り替えます。☞12
- 基材が乾燥した状態で使用し続けますと、微粉化した基材が排気フィルターを通過し、本体内部の換気ファン部分にたまり、回転を妨げる場合があります。本体底部の左奥にある排気口に手を近付けて風が出ているか確認してみてください。風が感じられない場合は、排気口より割りばしなどを差し込み、換気ファン部にたまった基材を取り除いてください。

投入口付近のお手入れ

■ふたのパッキング面や投入口の付近についたごみや汚れをふき取ります。
- 雨水の侵入防止や虫が寄りつかないようにするためです。

故障かなと思ったら

修理を依頼される前に　次の点をもう一度お調べください

症　状	調べるところ	直しかた
電源プラグをコンセントに差し込んでもかくはん運転しない	●電源プラグはきちんと差し込まれていますか。 ●ふたはきちんと閉まっていますか。	●電源プラグをしっかり差し込みます。 ●ふたをきちんと閉めます。
「少なめ」ランプが点滅している	●ふたを開けるとブザーがなりませんか。	●ブザーが鳴っているときは、保護装置が働いています。 ☞13
音が出る	●処理槽内に大きな生ごみや硬い生ごみが入っていませんか。	●取り除いてください。 ●「ブーン」という音は、モーターや本体の底にある換気ファンの音で異常ではありません。 ●生ごみを入れると処理槽の内壁にこすれて音が出ることがありますが異常ではありません。
においが強い	●使い始めて1週間前後くらいですか。 ●生ごみの投入が最大投入量を超えていませんか。 ●生ごみが投入口に付着していませんか。 ●ごはん、魚、肉などの割合が多くありませんか。 ●基材の交換時期ではありませんか。 ●風通しの悪い場所に据え付けていませんか。	●バイオ処理が活発になると、においはおさまりますのでそのままご使用ください。 ●生ごみの投入を2～3日やめてください。 ●生ごみを取り除き、汁などをきれいにふき取ってください。 ●でんぷん、たんぱく質に片寄るとにおいが強くなる場合がありますので避けてください。 ●基材を交換してください。 ●風通しのよい場所に据え付けてください。
ふたを開けると、湯気が出たり、ふたの裏側に水滴が付着している	●「標準」ランプまたは「少なめ」ランプが点灯していますか。 ●フィルターが詰まっていませんか。	●電源プラグをコンセントに差し込んでください。 ●お手入れをしてください。 ☞15 ●処理槽より湯気が出るのは、微生物の活動が活発なときに発生する分解熱によるもので、故障ではありません。
(運転切替)ボタンを押しても「リフレッシュ」ランプが消えない	●押すのが短かすぎませんか。 ●「少なめ」ランプが点滅していませんか。	●3秒以上押してください。 ☞11 （ピッピッピッピーとブザーが鳴ります。） ●保護装置が働いているので、原因を取り除いてから、(運転切替)ボタンを押してください。 ☞13

●上記以外の異常がある場合は、使用を中止して修理を依頼してください。

保証とアフターサービス（必ずお読みください）

保証書（別添）

保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みのあと、大切に保存してください。

保　証　期　間

お買い上げ日から1年です。

補修用性能部品の最低保有期間

当社は、この生ごみ処理機の補修用性能部品を製造打ち切り後最低6年間保有しています。
補修用性能部品とは、その商品の機能を維持するために必要な部品です。

ご不明な点や修理に関するご相談は

修理に関するご相談ならびにご不明な点は、お買い上げの販売店または「一般ご相談窓口」☞18 にお問い合わせください。

修理を依頼されるときは　出張修理

16ページに従って調べていただき、なお異常のあるときは、ご使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店にご連絡ください。

保証期間中は

修理に際しましては保証書をご提示ください。
保証書の規定に従って、販売店が修理させていただきます。

保証期間が過ぎているときは

修理して使用できる場合には、ご希望により修理させていただきます。

ご連絡していただきたい内容

項目	内容
品　　名	家庭用バイオ式電気生ごみ処理機
形　　式	BGD-170
お買い上げ日	年　　月　　日
故障の状況	できるだけ具体的に
ご　住　所	付近の目印なども併せてお知らせください。
お　名　前	
電 話 番 号	
訪問ご希望日	

修理料金のしくみ

項目	内容
技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器などの設備費、一般管理費などが含まれます。
＋	
部品代	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材などを含む場合もあります。
＋	
出張料	商品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

愛情点検　★長年ご使用の生ごみ処理機の点検を

ご使用の際、このような症状はありませんか？

- 電源プラグをコンセントに入れても時々運転しないことがある。
- コードを折り曲げると、通電したり、しなかったりする。
- 運転中、異常な音がする。
- 本体ケースが変形していたり、異常に熱い。
- 焦げ臭い“におい”がする。
- 本体に触るとビリビリ電気を感じる。
- その他、異常・故障があるとき。

→ **ご使用中止**

このような症状のときは、故障や事故防止のため、コンセントから電源プラグを抜いて必ず販売店に点検・修理をご相談ください。

保証とアフターサービス（必ずお読みください）（続き）

日立家電品についてのご相談や修理はお買い上げの販売店へ

なお、転居されたり、贈物でいただいたものの修理などで、ご不明な点は下記窓口にご相談ください。

修理などアフターサービスに関するご相談は
TEL 0120-3121-68
FAX 0120-3121-87

商品情報やお取り扱いについてのご相談は
TEL 0120-3121-11
FAX 0120-3121-34

＊フリーダイヤルされますと、お客様の地域を担当するセンターへおつなぎします。

一般ご相談窓口 家電品についてのご意見やご要望は各地区の**お客様相談センターへ**

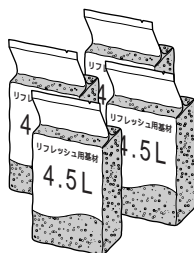
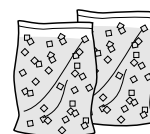
担当地域	電話番号	所　在　地
北海道地区	011-833-5088	札幌市白石区東札幌2条4-1-10
東北地区	022-232-5088	仙台市宮城野区扇町1-1-45
関東・甲信越地区	03-3834-8588	台東区東上野2-7-5（日立家電上野ビル）
中部地区	052-795-5088	名古屋市守山区川宮町55（日立家電守山ビル）
関西地区	078-431-5088	神戸市東灘区甲南町1-3-8
中国地区	082-231-5088	広島市西区観音新町1-7-17
四国地区	0877-47-1088	坂出市林田町4285-143
九州・沖縄地区	092-281-5088	福岡市博多区店屋町7-18（博多渡辺ビル）

● ご相談窓口の名称、所在地等は変更になることがありますのでご了承ください。

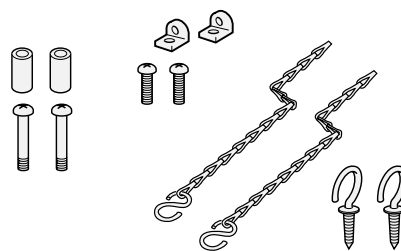
別売り部品

日立の家電品取扱店でお求めください。価格には消費税は含まれておりません。(価格は2002年2月現在)

■基材(バイオフレーク)セット(BG-C15)
バイオ菌入り基材 4パック入り(1パック 約4.5L)
希望小売価格 ￥1,980(税別)

当社指定の基材以外をご使用になった場合は、生ごみ処理機の性能、品質など保証できませんのでご留意ください。

■グリーンキューブ(BG-G5)
グリーンキューブ2袋(1袋 約0.5L)

希望小売価格 ￥650(税別)

■脱臭剤(BG-S1)
活性炭・pH調整剤入り脱臭剤3袋入り(1袋 145g)
● サービスパーツとしてご用意してありますので、もよりの販売店にご相談ください。
(部品番号BGD-120 010) 希望小売価格 ￥1,200(税別)

■鎖(BG-K2)

希望小売価格 ￥1,500(税別)

● 上記の希望小売価格は、価格改正に伴い変更する場合があります。

仕様

形　名	BGD-170
電　源	AC100V　50/60Hz共用
定格消費電力	最大　85W
外形寸法	幅425×奥行335×高さ605mm
質　量	本体10kg
生ごみ分解処理能力	1.2kg/1日（週1日　1.7kg）
据付場所周囲温度	−20℃〜40℃

メ　モ